

# 建設水道常任委員会記録

平成31年1月17日(木)午前10時00分～午前11時01分(9階908会議室)

## ○出席委員(8名)

委員長	大平 洋人	副委員長	梅津 一匡
委員	川又 康彦	委員	鈴木 正実
委員	白川 敏明	委員	村山 国子
委員	須貝 昌弘	委員	栗野 啓二

## ○欠席委員(なし)

## ○案件

所管事務調査「浸水対策に関する調査」

- 1 調査のまとめについて③
- 2 その他

---

午前10時00分 開 議

(大平洋人委員長) おはようございます。では、ただいまから建設水道常任委員会を開きます。

では、調査のまとめを議題といたします。

前回の委員会では、提言の方向性について、提言の部分のみ案としてお示しをしたところでした。その内容について協議をさせていただきました。その内容を正副手元で整理をいたしまして、委員長報告案としてお手元に配付させていただきました。本日はその内容につきまして協議していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

では、事前に配付いたしました委員長報告案について簡単に説明いたします。構成といたしましては、最初は導入、それから2番目としましては調査経過、そして3つ目は提言事項、4つ目が謝辞、そして5つ目にまとめという5つの部分に分けております。

最初の導入部分、1ページ、簡単に目を通して結構でございますけれども、1行目から、行数に合わせてやっておりますので、1から22までが導入部分ということと、それから調査経過が23から、4ページまでわたりますけれども、76ぐらい、これをこれまでの調査経過等をもとにまとめております。また、今度は提言事項のイメージとしては、4ページの番号でいきますと77から10ページの

213のところまでが前回の委員長報告案同様、4つの提言としてまとめさせていただいております。最後に、4項目めになりますけれども、謝辞という、イメージとしては10ページからになりますけれども、214というところから217ということと、そして最後にまとめでありますけれども、5番目としまして、これはページでいきますと10ページの218から226という感じでわかりやすくというか、まとめさせていただいておりますので、ごらんいただきたいと思います。

では、時間をとりまして、今の時間3分ぐらいになりますけれども、10時3分ぐらいですけれども、10分黙読いただきまして、その後ご意見をいただくという形にしたいと思いますので、よろしく願いします。

#### 【資料黙読】

(大平洋人委員長) それではこの内容につきましてご意見を頂戴したいと思います。

なお、その際は例えば6ページの119行の2点目は内水対策ののところからみたいな感じでしていただきますと皆さんも見やすいのかなと思いますので、そのようなイメージでご指摘等も含めましてお願いしたいと思います。

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴いたします。

(村山国子委員) 1ページの4から8と10から14なのですが、最初の段階で浸水対策を調査事項として決定しました、次に下の段落で内水氾濫を中心とした取り組みの方向性について調査を進めることに、これ1つにまとめたほうがいいのかというふうに思ったのですが、こういう調査項目でいきますよというあわせたやつにしてしまったほうがいいのかというふうに思いました。

あと次に、4ページなのですが、86から93なのですが、高槻市の例が書いてあるのですが、市全体で統一的な方針のもと、庁内横断的な対応をとっているところでありましたというのが文章の中に2回ぐらい出てくるので、ちょっと精査したほうがいいのかというふうに思いました。

あと、次が7ページの上のところなのですが、137、138で外水と内水を1冊にまとめた水害マップを整理するなどというふうにして書いてあって、その下で内水ハザードマップを早急に作成すべきでありますとなっているから、ちょっとここが合っていないのかなというふうに思いました。

あと、7ページの下のところでも自助、共助を促す取り組みが必要と書いてあって、8ページの一番下のところでもやっぱり同じ文字が、178からハード整備などの公助だけでは防ぎ切れないという179にかけて同じ文言が入ってくるのです。なので、ここら辺もちょっと精査したほうがいいのかというふうに思いました。

あと、9ページの193なのですが、防災情報伝達体制の確立のためというふうになっていて、最初に水防活動が可能となるとともに、市民へも市の情報をホームページを通じてと、こうなっているので、題としては防災情報伝達なのに、市民へも市のホームページを通じてというのが、伝達が後になっているというのがちょっとあれかなと。

(粟野啓二委員) これあくまでも金沢市の話でしょう。

(村山国子委員) そうそう、そうそう。だから、確立して、市民への伝達もすごく構築されていて、その上水防活動も可能になったというか、193では防災情報伝達体制の確立というふうになれば、市民への情報伝達が先なのかなというふうに……

(粟野啓二委員) 向こうの文章でしょう、これ。

(大平洋人委員長) そうなのです。向こうの……

(村山国子委員) そのままではしようがない。

(粟野啓二委員) 金沢市のことをとやかく言うわけにいかないから、俺らは。

(大平洋人委員長) そこは動かせないから。

(村山国子委員) そうだね。そこはそのまま文章とったのであればしようがないですね。了解です。

(梅津一匡委員) 1個1個やっていったほうがいいのではない。整理していかないと。

(大平洋人委員長) 最初が……

(村山国子委員) 1 ページ、調査項目を2段階で書いてあるので、1つにまとめてしまったほうがいいのか。

(梅津一匡委員) 一応正副での話、打ち合わせの中とかでもこの関係というのを整理したいと思うのですけれども、最初に浸水対策を調査項目として決定したという事実はまずそこを入れて、特にとところでやっぱり内水のことを調査するのだよという意味であえてここは分けて、強調して内水のことを調べたのですよという意味合いを深めさせるためにこのような形で分けたので、ここを一遍にしてしまうとどういうことを主体として調べようとしていたのかということところがぼやけてしまうかなということもちょっとあったという意図なので、願わくばこのままでいければなというふうに。

(鈴木正実委員) 特にで強調されている。

(梅津一匡委員) でよろしいかなと思うので。

(大平洋人委員長) どうですか。大丈夫ですか。

(村山国子委員) 大丈夫です。

(大平洋人委員長) 皆さんもよろしいですか。

(白川敏明委員) ちょっといいですか。1ページの11行目。下水道や水路によって排水し切れないことによって、よって、よって、よって、ちょっと。ことによりとか。

(鈴木正実委員) 後ろ、排水し切れずとかにして、起こる内水氾濫……

(梅津一匡委員) 排水し切れず起こる内水氾濫による。

(大平洋人委員長) 排水し切れずね。あとはいいかな。

(梅津一匡委員) 村山さんが挙げてくれたのを全部、1個ずつ言っていったほうが。

(粟野啓二委員) 次は今の4ページでいいのか。

(村山国子委員) 市全体でから幹事会を立ち上げがなくても、後で書いてあるから、いいのかなという気もするのですが。87の必要に鑑み、平成25年2月には高槻市総合雨水対策というふうにつながっ

でも、後ろで市全体で統一的な方針のもと、庁内横断的な対応をとっているとのことでありました。それでもいいのかなというふうに。でも、関係部長とかは必要かなという感じもするのだけれども。

(梅津一匡委員) 庁内横断が2個出てきてあれだというのだったら、頭のほうが要はこれは具体的説明なので、頭は残して、削るなら92のところの、91の後段のところ、策定するなど、市全体で統一的な方針のもとというこのところをある程度精査していけばいいのかなと思うのですけれども。

(村山国子委員) 策定していますでいいのかな。

(大平洋人委員長) 92をごっそり削って、策定するとのことでありました。

(川又康彦委員) 私としては、個人的には目的と結果みたいな感じなので、いいのではないですかと思えますけれども。

(梅津一匡委員) 例えばだけれども、策定するなど対応をとっているとのことでありましたにすればいいのではないですか。

(村山国子委員) それだったらいいね。

(梅津一匡委員) とりたいというなら。

(白川敏明委員) 自分は別にとらなくてもいいような気がするのですけれども。

(川又康彦委員) このままでいいと思う。

(須貝昌弘委員) 必要なところはやっぱり入れるべきだと思います。余り簡略化すると、こっちはわかっているかもしれないけれども、読んだ人が。

(粟野啓二委員) 初めに読む人がわからなくなってしまうよ。

(須貝昌弘委員) かえって重なって当局がわかりやすいほうがいいかもしれません。

(梅津一匡委員) どうだろうね。

(村山国子委員) みんながよければ。

(川又康彦委員) うちとしては、これをもとにこちらでも部局横断的な組織体制をつくってもらって、後の提言にも入ってくると思うのですけれども、そして結果的にアクションプランも市全体で統一的な方針のもと庁内横断的なものをつくってもらいたいから、こういう書き方しているわけでしょう。

(粟野啓二委員) 提言の前哨戦でしょう、ここで言っているのは。だから、余りこれはいじらないほうがいいと俺は感じる。

(大平洋人委員長) では、皆様、いかがですか。残すというような形で。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(大平洋人委員長) では、そこは整理しないということで。

次が村山さんから出てきたところは7ページ、137からというところね。

(村山国子委員) 上で内水、外水を1冊にまとめて、重要な視点でありますとなっていて、上と下と合っていないな。

(川又康彦委員) 私としては、確かに村山委員おっしゃるとおり上と下で言っていることが多少違う

部分があって、例えばですけれども、139からの行を134の後にまず持ってきて、その後にさらにさまざまな水害のハザードマップを市民目線でわかりやすく伝える方法について、マップの統合なども含めて検討すべきでありますという表現があると思うのですけれども、この辺に135から138の部分をつつける。つまりマップの統合というのが135から言っていることと同じことだと思うのです。

(大平洋人委員長) ひっくり返すということ。

(鈴木正実委員) ひっくり返して中に入れていかないと。

(川又康彦委員) 内水ハザードマップをつくるのはもちろんなので、つくった上で本市では洪水ハザードマップをつくりましたが、これの統合も含めて行く行くは検討すべきではないかというふうなふうに持ってきたほうがいいのではないかな。

(村山国子委員) 段階的にやっていかないと一遍にはできないから。

(川又康彦委員) つくったばかりだし。

(大平洋人委員長) このようなことからということ。

(川又康彦委員) の後にこのようなことから内水ハザードマップを早急に、あります。その後の部分を135からのところとうまくごっちゃにするとそういう文章になるのではないかな。

(鈴木正実委員) このようなことというのが1冊にまとめるということを指している言葉なのではない。

(川又康彦委員) 統合で。その辺が135から136に入っている市民にとっては内水と外水の違いを明確に区別して把握することは難しい云々というのは重要な文章だと思うのです。それが統合する理由なわけですから。その辺をうまくしてマップの統合なども含めて検討すべきでありますというふうにならざるを得ない。

(鈴木正実委員) 135の本市においては後ろに内水対策としてという139のこのようなことの後ろ、早急に作成すべきであります。ただ、その際に内水、外水の違いが市民にとってわかりづらいので、改めてそれを内水、外水1冊にまとめた水害マップとすべきではないか、そのマップの統合などを検討すべきでありますというふうになっていくとわかりやすいのかな。

(大平洋人委員長) 入れかえするということね。

(川又康彦委員) どういう文章にするかは委員長、副委員長にお任せします。

(粟野啓二委員) 趣旨了解。

(梅津一匡委員) 要は本市においては、内水対策については近年の水害を踏まえた厳格な目標値を定め、シミュレーションに基づいた内水ハザードマップを早急に作成すべきであります。先ごろ洪水ハザードマップを改定したところですが、市民にとっては内水と外水の違いを明確に区別して把握することは難しいため、他市の事例のように外水と内水を1冊にまとめて水害マップとして整理するなど、いかにわかりやすく市民に伝えるかという点が重要な視点であります。さらにはとってしまっているのかな。さまざまな水害のハザードマップを市民目線でわかりやすく、ここからかぶっているのだね。

同じなのだね。ここは要らない。

(鈴木正実委員) さっきのいかにわかりやすく市民に伝えるかという点が重要な視点であり、マップの統合なども含めて検討すべきであるというふうに。

(粟野啓二委員) あとどこだっけ。

(村山国子委員) 7ページの下のところのハード整備だけは防ぎ切れないことから、ソフト対策の充実や住民の自助、共助を促す取り組みが今後ますます重要になりますの文言が178からまるで同じく入っているのね。178と、ハード整備などのこういう取り組みが重要である。重要になります。重要であるからだから、文言の整理はちょっと必要かなというふうに。

(粟野啓二委員) 同じ文章が入っているということだな、これ。

(村山国子委員) そうそうそう。重要であり、重要であると。だから、まとめて入れてしまったのでいいのかなと思ったのですけれども。

(粟野啓二委員) ハードとソフトは違うのだけれども、同じ文章になっているということね。

(梅津一匡委員) だったら、178のハード整備などの公助だけでは防ぎ切れない突発的な水害に対してはというところを削ってしまって、このようなことからとかとやっしまえば、前の説明の文から続くのかな。このようなことから市民の自助、共助の取り組みが重要であることからというような形で接続すればどうかと。

(大平洋人委員長) 対してまで削ってしまう。

(梅津一匡委員) 対してまでは削ってしまって、ここのところをこのようなことから。

(鈴木正実委員) ことから、ことからになるよ。後ろちょっと精査して。

(川又康彦委員) 同じく159、最初にダブっている最初の部分なのですけれども、この文章のちょっと意味がよくわからないというか、意味はわかるのですけれども、集中豪雨に伴う雨量は限られた予算の中で実施するハード整備だけでは防ぎ切れないという部分。雨量は防ぎ切れないという意味になってしまっているのです。

(梅津一匡委員) 雨量に対応するためには限られた予算の中で、雨量への対策は。

(村山国子委員) 雨量に対してにしたら。集中豪雨に伴う雨量に対して。

(梅津一匡委員) 集中豪雨に伴う雨量って削ってしまえばいいのだよ。限られた予算の中で実施するハード整備だけでは防ぎ切れないと。

(村山国子委員) 調査がこれだからね。

(梅津一匡委員) 集中豪雨に伴う雨量はを削ってしまっはどうでしょう、委員長。

(大平洋人委員長) では、159はここを削って、限られた予算の中だと。

(川又康彦委員) 実施するハード整備だけではですね。

何となく気になっているのが、あともう一個にも入ってくる水害意識という言い方が、水害意識というのはどういう、言っている意味はわかるのですけれども。

(梅津一匡委員) 水害に対する。

(川又康彦委員) そういう意味なのだと思いますのだけれども。

(鈴木正実委員) 今副委員長言ったとおりにすればいいのではない。

(大平洋人委員長) 水害に対する意識醸成のための。

(川又康彦委員) 同じ言葉で9ページの183行目も多分同じ。

(梅津一匡委員) 水害に対する意識醸成のため。

(鈴木正実委員) 3ページの47の歴史的な話、昭和55年以降云々というところ、47、48、49、50から54行までの間で昭和55年以降50ミリを超えるゲリラ豪雨は平成元年10月、平成7年、平成29年の過去3件だと、それに加えてということで、40ミリだということで平成3年、平成12年、平成20年、平成22年、平成24年、5件で、これ単純にここまで読んでくると合わせて8件と見れるのですけれども、でもその後ろ、市内各所で発生しており、特に祓川においてはと、今度平成28年、平成29年という上にならない年代でここ説明になっているのだけれども、それってどういうふうに数えればいいのかなど。それと同時に、自分の地区に限って申し上げて申しわけないのですけれども、平野で飯坂線の電車が運休して市民の足に影響が出たのだというくだりは絶対必要なのではないかと思う。それが局所的にそういう水害が起きていて、市民の足まで奪っているのだというそこはぜひ欲しいのかな。

(粟野啓二委員) どこに入れる、それ入れるとすれば。

(鈴木正実委員) ここで2年連続で浸水被害が発生した。さらに、平成28、29、30年、3年連続だと思のです、飯坂は。平野は。平成28、29、30年、去年も起きている。去年は川又君、そうよね。だから、3年連続で飯坂線は冠水して電車がとまった、市民の足に影響を及ぼしたのだという、そういう集中した被害が発生しているのだという、その間に入るべきではないかなと思うのですけれども。

(梅津一匡委員) ここの接続詞は特にではなくするしかないとは思うのですけれども。

(粟野啓二委員) 今の鈴木委員が言ったのをいれるとすれば別々に記載しないと。

(鈴木正実委員) 3年連続だということ、上は2年連続だということ、その連続性をここは近年にこういう形で連続して起きているのだというニュアンスをここは出したいのだろうと私は判断したのです。

(大平洋人委員長) 何年連続ではなくて近年とかそういう言い方で、多発しているとか、そういう言い方……

(鈴木正実委員) 上の8件と平成28、29、30年というののつながりがなくなってしまうので。

(梅津一匡委員) 結局平野とか祓川とか、ここ何で出てこないか。多分この雨量ではなくてもなってしまうというのがあると思うのです。なので、一つの案として、特に祓川云々というところではなくて、先ほど白川委員ちらっと言ったように、近年祓川や、平野と入れてしまうとちょっとあれなのかなと、飯坂線沿線等においても局地的に床下、床上浸水が発生するなど、今俺考えながら言っているから、文言かえにくいから、あれなのだけれども。

(鈴木正実委員) そこちょっと精査してもらいたいのですけれども。

(白川敏明委員) 床下とか床上はあったのだけ。

(鈴木正実委員) 床下、床上はないのです。電車がとまって。

(村山国子委員) 浸水だけでいいのではない。床上、床下入れなくても。

(梅津一匡委員) 近年、祓川や飯坂線沿線などにおいて浸水被害が発生するなど、集中して被害が発生している箇所もあります。

(鈴木正実委員) 俺さっき言ったのは、本当に電車ではやっぱり市民の足に影響を及ぼしたというところが何百人もいるわけだから、2時間、3時間とまっているわけだから、そういうくぐりは具体的なものとしてそこは入れなくてはならないのではないかな。床上浸水何件というよりは、何時間電車が運休して、多くの市民の足に影響を及ぼした。何時間なくてもいいけれども。運休するなどして市民の足に影響を及ぼしたのだという、そういうのは必要なのではないかなと。

(大平洋人委員長) では、そういう形で祓川と飯坂線の件を絡めて、特にではなくて近年というぐぐりがよさそうですね。文言を使わせていただいて、それで精査させていただきたい……

(梅津一匡委員) 精査させていただくのではなく、今ここで決めてしましましょう。

(大平洋人委員長) 近年……

(梅津一匡委員) 近年、祓川や飯坂線沿線等において浸水被害が発生するなど、集中して被害が発生している箇所もありますというようにくぐりに対して、例えばそこにさっき鈴木委員言ったように市民の足が寸断されるとか、そういうような文言をちょっと付加すればよろしいですか。

(鈴木正実委員) 今言った要するに集中して被害が発生している箇所もありますというところまでいくわけね。そうしたら、特に平野地区では電車がとまって市民の足に影響を及ぼしたというような、そういうのもここに入ればいいのかなど。

(粟野啓二委員) 平野と入れるべきなのかどうかという部分……

(村山国子委員) 飯坂線沿線。

(大平洋人委員長) 市民の足とか。

(鈴木正実委員) 飯坂線が運休し、市民の足に影響を及ぼしたとかという、平野地区なくていいから、それは……

(梅津一匡委員) 整理させていただいてよろしいでしょうか。近年、祓川や飯坂線沿線等においては浸水被害が発生し、市民の生活に影響を及ぼすなど、集中して被害が発生している箇所もありますかどうか。

(大平洋人委員長) では今副委員長が読み上げさせていただいたイメージでどうですか。

(白川敏明委員) それはお任せします。

(大平洋人委員長) それで、見てもらって、全部通して、また再提示させていただきたい。一通りまず村山さんが全体通していろいろご指摘していただいた部分をベースでやってきたわけですけども、あとそのほかありますか。



(村山国子委員) どうも1つ気になるのが196の市民へものものなのです。何か市民がつけ足しみたいで、その接続をもではなくて、別なほうがいいのか。市民へも、何かつけ足しかなみたい。どうもここが気になって。

(大平洋人委員長) そう言われると変な気もしないでもない。

(梅津一匡委員) 市民にでいいのではない。へもではなくて、にでいいのではない。

(村山国子委員) 市民に。そうですね。

(梅津一匡委員) 市民に市のホームページを通じて。

(大平洋人委員長) にでよくなったのではないのでしょうか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(栗野啓二委員) 大体そろったのではない。

(大平洋人委員長) そんなご意見も出ておりますが、全体としましていかがでしょう。

(栗野啓二委員) 整理してからもう一回精査しましょう。立派にまとまっている、流れは。

(須貝昌弘委員) 流れはまとまっているからね。

(村山国子委員) すばらしいですね。

(大平洋人委員長) 1時間になりました。大分活発なご指摘もご意見頂戴いたしましたので、ではそれ以外につきましてはそれに基づきましてまた正副手元で整理をさせていただいた上で、改めてお示しをさせていただく用意をしていきたいと思いますが、そういうことでよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(大平洋人委員長) ありがとうございます。では、そのようにさせていただきます。

では次に、その他を議題といたします。

次回、第12回の委員会は1月の31日木曜日10時からこちら、908会議室で開催というふうにさせていただきますが、そのような形にさせていただきたいと思います。

それでは、今後の日程調整のため、暫時休憩をいたします。

午前10時59分 休 憩

---

午前11時01分 再 開

(大平洋人委員長) では、休憩を解きまして、また再開いたします。

そうしますと、2月の日程でございますけれども、2月21日午前10時からというふうにさせていただきますので、当初の22日の案は消していただきたいと思います。

それでは、そのような形で確認がとれましたので、そのほか、これ以外につきまして委員の皆様から何かございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(大平洋人委員長) なければ、以上で本日の建設水道常任委員会を閉会といたします。お疲れさまで

した。

午前11時01分 散 会

建設水道常任委員長 大 平 洋 人